



SAHAのメンバーと共に

マグニチュード7を越える揺れが一日に二度も襲ったトルコ・シリア地震は2023年2月6日に発生し、トルコとシリアの国境付近に大きな被害をもたらしました。2年近くが経とうとしている現在も、依然として多くの人が避難生活や余儀なくされています。この地域でシリア難民の支援活動を実施していたジェンは、直ちに地震被災者の支援活動を開始し、その中で、現地の支援団体「SAHA」と出会いました。「SAHA」は、今回の地震を機に設立された新しい団体で、元々トルコの国内で人道支援に携わっていたトルコ出身のメンバーたちが、被災者に支援がなかなか届かない状況をなんとかしようと立ち上がったのがはじまりです。支援活動の経験が豊富で、炊き出しであたたかく栄養価の高い食事を提供するとともに、地域コミュニティの主体性や結束を高めることを大切にする姿勢に共通点を感じ、

2023年12月からジェンの提携団体として活動してもってきました。ジェンは「SAHA」が支援している地域ボランティア運営の炊き出し施設をサポートしています。いまだに調理設備のないテントやコンテナで暮らす被災者にとって、尊厳を尊重した形で受け取れる朝夕の炊き出しはお腹も心も満たされる大切な時間です。この時間を地域住民が集まって交流する機会にするだけでなく、震災後の厳しい経済状況などで学校に昼食を持参できない子どもたちのために平日昼間にも炊き出しを行い、給食のサポートも行っています。また、炊き出し施設で働くスタッフたちも地震の被災者であるため、心のケアを大切にしています。震災当初は苦しみや悲しみを分かち合うことに重点が置かれていましたが、この頃は未来について考え、話し合えるようになってきました。こうしてコミュニティに寄り添い課題に取り組む

「SAHA」メンバーと、現地への訪問やオンラインでの話し合いを重ねながら、支援を実施してきました。地域住民や施設スタッフの炊き出し継続への期待が高かったため、現地のコンサルタントに炊き出し施設のサポートを依頼。施設を運営し続けるための収入創出計画についてアドバイスを受けました。「SAHA」の地域ネットワークを活用した炊き出しの継続計画が動き始めたため、ジェンは2024年10月をもって炊き出し施設への支援を終了しました。「SAHA」の皆さんと共にこの事業を実施でき、施設の自立にも貢献できたことを、ジェンとしても心から感謝し誇りに思っています。今後、良き仲間、パートナーとして協力関係を続けていきたいと考えています。とはいえ、トルコでは依然として難民の方も地震被災者の方も厳しい状況にあります。今後もトルコでの支援活動をぜひ応援してください。

※「SAHA」の正式名は「S.A.H.A.」となります。可読性を良くするため「SAHA」と表示いたしました。

尊厳を大切に仲間「SAHA」との連携 〜トルコでの炊き出し支援〜

支援者の皆さまへ

2024年は、パキスタンの現場を久しぶりに訪問し、1年もの間水が引かない大洪水に見舞われながら、力強く立ち上がる人びとにお会いするところから始まりました。4月には、川北さんから桑原さんへと代表理事が交代し、新たな理事も3名も入っていただいてジェンが新しい段階に踏み出しました。川北さんには、ジェンが厳しい時期を乗り越えることに多大なご尽力をいただき、感謝しかありません。ジェンが組織変容を遂げつつある間も当然のことながら、支援活動は休むことなく継続し、多くの方を支えることができたのは、一年を通してジェンを支援し続けてくださった皆さまのお陰です。金銭や物品のご寄付、労力、専門的な知見や技能、場所などの資産を惜しみなくご提供くださった方々や、励ましのお言葉をかけたり、ジェンの活動を他の人に伝えたりと、今年もあらゆる形で支えていただきましたこと、心から感謝いたします。厳しい状況にある方々の暮らしが少しでも改善するよう、皆さまと共に来年も邁進してまいります。

JEN理事・事務局長

木山 啓子

普通の暮らしを取り戻そうと努力する人びとを支える ジェンの活動をご支援ください

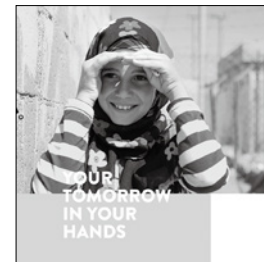
あなたの支援で、明日を選ぶ未来を—— JENサポーターを募集中



ジェンは、厳しい環境にある人びとが「自分で明日を選ぶ」よう支援を続けています。あなたもJENサポーターとして、「生きる力」を共に支えていただけませんか？

例えば、月々1,000円のご寄付を1年間続けていただくことで、アフガニスタンの2世帯の家族に衛生キットを届けることができます。この衛生キットは、命を守るために不可欠な道具です。あなたのご支援で、現地の家族が健康で安心できる生活を手に入れることができるのです。

今、あなたのサポートが必要です。JENサポーターになって、未来を変える力を人びとに届けてください。



あなたの遺志が未来を支えます—— 遺贈寄付のご案内



遺贈寄付という形で、あなたの大切なご遺産の一部を託していただけますと、将来にわたって困難な状況に置かれた人びとを支えることができます。例えば、250万円のご寄付で、アフガニスタンの食糧危機に直面している30世帯(約210人)に、2ヶ月分の食糧と衛生知識を届けることができます。

この支援により、必要な栄養だけでなく、手洗いの重要性などの基本的な衛生知識が伝えられます。衛生習慣の向上は、子どもたちの健康を守り、彼らが勉強や遊びに集中できる環境を整えるだけでなく、家族全体の健康と自立を支える大きな一歩となります。

ジェンは、あなたの遺志を大切に、そのご厚意を通じて未来の命を守り続けたいと考えています。遺贈寄付についてご興味をお持ちの際は、ぜひお気軽にお問い合わせください。



※本誌掲載の記事、写真、イラストなどの無断転載は固くお断りいたします。

封筒に記載されてる住所について

現在のジェンの所在地は差出人選付先に記載されている住所となります。皆さまにはご不便をおかけいたしますが、ご理解賜われますようお願い申し上げます。



特定非営利活動法人ジェン(JEN) 東京本部事務局

〒107-0052 東京都港区赤坂7-5-27-305
TEL: 03-5114-6201 FAX: 03-5114-6202

ホームページ <https://www.jen-npo.org/>

NPO JEN

Japan.Emergency.Ngo

@NGO_JEN

@ngo_jen

このニュースレターは継続可能な森林管理のもと生産された原料で製造された紙、FSC®認定紙を採用しています。



トルコでの支援活動を
ぜひ応援してください

今回のみの
ご寄付は
こちらから



JENサポーター
(継続)のご登録は
こちらから



ジェンへのご寄付は
税制優遇を
受けられます



アフガニスタン 〈ナンガルハル県女子教育環境改善事業〉

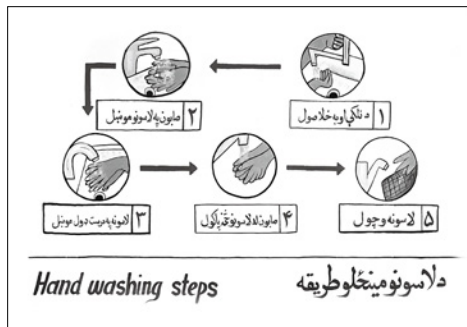
就学する子どもが1,256人も増えました

2023年から取り組んできた女子教育環境改善支援事業。ひと口に環境改善と言っても、外壁、校舎、貯水槽を整備して、先生向けの基礎教育法と心理カウンセリングの研修をするだけではありません。これに加えて、先生や生徒を対象に衛生・爆発物回避の研修を実施。また、家族や地域社会向けに女子教育の重要性を理解してもらうための啓発活動も行いました。3つの女子小学校で、1,256名もの児童が新たに就学することができました。(この3つの小学校では、時間を分けて男子児童と女子児童が登校するため、の中には男子児童も含まれています。)

ジェンのような国際NGOによる教育分野での支援活動が制限されているため、当局関係者との調整は困難を極めましたが、皆さまのご寄付に背中を押されたジェンの現地スタッフの熱意と粘り強さで乗り切ることができました。どうもありがとうございました。



教育現場の環境改善には衛生教育もかせません



手洗い場に設置した手の洗いのポスター



登校してきた教室で笑顔を見せる女子児童たち

パキスタン 〈シンド州洪水被災者支援〉
学校・水施設再建及び
災害対応力向上事業が
進んでいます

シンド州ダウド郡の洪水被災地域では、農業の事業を進めてきましたが、影響を受けたのは生計手段だけではありません。現在ジェンは、浸水して使えなくなった12校の小学校再建工事と衛生教育も進めています。

秋になっても気温が35℃まで上がるこの地域で、子どもたちは仮設テントで授業を受けていますが、テントの中は40℃を超すことも多いといいます。



浸水した校舎1階を再建工事中



外壁の工事が終了

一刻も早く校舎が使えるようにと工事を急ぐかたわら、子ども達の衛生習慣を変えることから地域全体の衛生状態を向上させるべく、学校管理委員会や先生が、衛生の知識を真剣に学び、災害対応力向上のための研修も受けています。

子どもたちが安心して学校に通い始め、地域の人びと全体の健康と災害対応力が向上したといえる日が少しずつ近づいています。

冬募金のお願い

寒さが厳しくなるこの季節、支援がなければ命の危機に瀕する人びとがいます。

ジェンでは、紛争や災害により

影響を受けた人びとの生活を守るため、「冬募金」キャンペーンを実施しています。

特にアフガニスタンのような

困難な状況に直面している地域では、皆さまのご支援が大きな力となります。



■アフガニスタンの現状

アフガニスタンでは、2021年のタリバンによる全土掌握後に状況が大きく悪化し、気候変動と食料価格の高騰が追い打ちをかけ、1,420万人もの人びとが深刻な食糧不安に直面しています。2024年には、国際的な生活支援の取り組みによって、わずかながらも改善が見られると報告されていますが、それでもなお、人口の3分の1以上が危機的状況にあり、緊急の支援を必要としています。



皆さまのご協力をお願いいたします

この状況を受け、ジェンでは「冬募金」を開始しています。どうか、この冬、1人でも多くの人びと、特に厳しい状況の子どもたちに希望を届けられるように、ご協力をお願いいたします。

●冬募金はここから <https://www.jen-npo.org/n/news/20789>



チームビルディングと連帯感を深めた合宿

10月7、8日の2日間、ジェンの役員と東京本部の職員が高尾山の麓で一堂に会して合宿を行いました。チームビルディングと連帯感を深め、支援活動の効果

を高めることが目的です。

普段の業務を離れ、リラックスした環境の中で、支援活動の未来を共に真剣に考えました。

この合宿で、ジェンの目指す「自立した生活を取り戻す支援」と「尊厳を大切にすること(心のケア)」という二つの柱を、全員がより深く



理解し、心をつなげて進んでいく決意を新たにしました。厳しい状況にある人びとに少しでも寄り添い、希望を取り戻すことを支える

ため、新たなエネルギーを得た私たちは、全力で支援活動が続けていきます。これからも応援をよろしくお願いたします。

職員紹介

グローバル事業部
トルコ担当(新任)
坂本有子
(さかもと ともこ)



はじめまして。今年7月にジェンに入職した坂本有子です。子どもの頃から国際協力に関心があり、おもいきって転職しました。業界未経験の私を快く受け入れてくれたジェンに感謝しています。これまでも公益・国際にかかわる仕事をしてきたので、自分の経験をジェンでの仕事に活かしつつ、たくさんの方から学ぶことができていることを学んでいます。

います。職場では、経験も個性も豊かな職員の方々に日々支えられ、不安なく仕事をしています。真剣に業務に取り組みむかたわら、笑いも忘れないおだやかなジェンの雰囲気がいなと思います。仕事のことでなく、本部や現地職員の方々の、明るさや好奇心にも元気をもらっています。どうぞよろしくお願いたします。